

都留文科大学の今とこれから

その一 危局に立つ大学

学長 上田 薫



での苦心の大きさをものごとくと同時に、これからの課題の大きさ、道のけわしさを予測させずにはいないものです。ほかの大学なりにやっていたら一応安心できるというふうにはいかないために、問題解決の一つ一つにくふうが必要です。それも条件が複雑で難問続出ということであれば、乗り切っていくのは容易ではありません。

なにしてる大学の世界は、今かつてないほどむずかしい時期にぶつかっています。二十年前大学紛争が盛んであったころも、むろん大変でしたが、そのときはまだ存在の危機というほどのことはありませんでした。私たちの大学のうちに、その経験を踏まえて充実をほかり、順調な発展をみた学校も少なくありません。けれども現在日本の大学が直面している難局は、当時とは全く異質の根本的な性格のものなのです。考えようによってはこの上なく恐ろしいものです。

必要減ということは一転障壁にぶつかってしまっただことです。子どもの数の減少が原因ですから、どこへ文句のつけようもありませんが、私たちとしてはそれこそ死活の大問題だといわなくてはなりません。都留文科大学に対する全日本の信用がもっぱらよき教員の輩出ということにあった以上、この窮境の打開のむずかしさには想像を絶するものがあるといっても、けっして誇張ではないと思います。

なにしてる大学の世界は、今かつてないほどむずかしい時期にぶつかっています。二十年前大学紛争が盛んであったころも、むろん大変でしたが、そのときはまだ存在の危機というほどのことはありませんでした。私たちの大学のうちに、その経験を踏まえて充実をほかり、順調な発展をみた学校も少なくありません。けれども現在日本の大学が直面している難局は、当時とは全く異質の根本的な性格のものなのです。考えようによってはこの上なく恐ろしいものです。

最近の私学には学部学科の増設や、ぜいたくな校舎の建築など、派手な動きが目立ちます。近いうちに学生の総数が大きく減るといいうのに狂気の沙汰とみえるのですが、そこまであえて冒険をしても生き残り競争をなんとか勝ち抜きたいという必死の願いが、そこにあるということでしょう。そこへもってきて、安定しているはずの国公立大学まで、学生にアピールする方向への切りかえをけんめいに模索しています。これではもはや戦国時代だといっても、大げさではありません。

もちろん教員養成を軽視するわけではなく、その伝統を大事にしなれば元も子もありませんが、小学校中学校に高齢教員が多くて、なお新採用の需要のある現在ですらも、卒業生の半ば以上を教職外に就職させなくてはならないのですから、今後ともほどの改革が必要で、当然新しい領域を留意しなくてはなりません。効果がなければかりか、これまで築いてきた信用まで一挙に失うおそれもあります。しかもあらためて言うまでもないことですが、この重大な方向転換をなしとげるために欠くべからざる大事な財源が私たちに与えられていないということが、なにもまして苦しいことです。



都留文科大学に兼任して四年を過ぎました。大学の様子もすっかりわかりましたし、都留の街にも馴染みができました。そしてこの大学の得がたき、かけがえのない値打ちに気づけば気づくほど、こういう大学を育ててこられた都留の市民にあらためて敬意をおぼえる昨今です。このようにして成り立っている大学は全国どこをさがしても見あたりません。もし都留文科大学が今後もしよやかに発展していくならば、必ず日本の大学史に残る価値ある存在になるに相違ないと確信しています。都留市の名もますます輝きを大きくするにちがいありません。私はこれからも万難を排してこの大学をりっぱに維持発展させていきたいと強く念じています。

だれもが知っているように、それは四年後から大学就学人口の激減があるということ。出生率が明らかに示すように、当分回復の見込みはありません。これをわかりよくたとえて言えば、どうしようもなくお客が減る、したがって当然つぶれる店ができる、つぶ

武田信玄ではありませんが、そういうきびしい戦国の世に、わが大学はどう対処すればよいか、深刻な問題なのです。大学の成り立ちや性質がユニークであればあるだけ、利点もあるかわり問題点も多々あります。ことに致命的に苦しいのは、財政難に加えて私たちがこれまで看板とし、全国的に認められてきた教員養成が、教師の

そういう過程です。に生みだされた社会学科については次に述べますが、いずれにしても財政的なバックの強くない多くの大学が今はそれぞれ迫られて四苦八苦の道を歩んでいることを、都留市民のみなさんが理解してくださることは大切だと思います。わが大学も今のうちに充分手を打ち力をつけて、六十年代末期をピークとする「大学の危機」を乗り越えることができれば、あとはきつと安定した歩みを進めることができるでしょう。学長としてとりわけここまでのお力ぞえを、みなさんに切

しかし大学がそのような特異の価値をもつということは、これま

つぶれる店ができる、つぶ

全国的に認められてきた教員養成が、教師の

切